日本藻類学会第18回大会エクスカーション（のとじま水族館・ワカメ養殖見学会）参加記

学会史上最高の参加者数で盛り上がった日本藻類学会第18回大会（富山）に先立つ3月28日から29日にかけて，石川県ののとじま臨海公園水族館で栽培展示中のジャイアントケルプ (*Macrocystis pyrifera*) 見学と，富山県女良のワカメ養殖見学をメインとするエクスカーションが，富山水試藤田大介氏を案内役として行われたので，その概要を報告する。

学会2日前の28日（月）午後2時に金沢駅コンコースに集合した21名（石川先生は宿舎で合流）は，マイクロバスで能登半島を一路北上した。車内では北陸地方の海藻研究の歴史について藤田氏から紹介があり，岡村金太郎先生が，最初に赴任された地が金沢（旧制第四高等学校教授）であったこと，そのため能登産種が日本海藻誌に多く見られることなど，恥ずかしながら筆者が知らなかった貴重な話をうかがうことができた。

午後4時頃のとじま水族館に到着した。ジャイアントケルプの栽培に尽力されたのとじま水族館の荻野洸太郎氏は，残念ながら不在であったが，別の係の方のご案内で館内を案内していただいた。

水族館内は広く，大型水槽に各種魚類が数多く展示され，また国内の多くの水族館ではほとんど見ることのできない生きた海藻（イワヅタ類）も一部の水槽に実際に魚類とともに栽培されており，ガラス水槽内で実際の海洋の生態が美しく再現されていることに感激した。

屋外の円形コンクリート大型水槽にはアカモクの海中林が形成されており，地下のトンネル水槽のガラス窓ごしに見ることができた。これは最初に移植してからはその後ずっと水槽内で自生し，どんどんその数が増加しているとのことであった。

目玉のジャイアントケルプの水槽（容量450トン）は，海の自然生態館という別棟にあり，高さ 6m ほどのガラス張りで見上げるほどの見事なものであった。残念ながら冬場の日照不足で一部枯死してしまったとのことで，最も繁茂していた時に比べ，やや短くなってしまったようだが，数本は底から水面までとさらに水面で数 m 横たわっており，実物のカリフォルニアのジャイアントケルプは映像でしか見たことのない筆者にとっては迫力あるものであった。さらに短く切れたものを現在多数育苗中とのことであった。

とかく魚類に偏りがちな水族館の展示物に，このような見事な海藻類が国内あちこちでみられるようになれば，海藻イコール食用と直結しがちなわれわれ日本人にとって，海洋生態系の重要な構成員であり，また魚介類のすみかでもある藻類に対する親近感がさらに増すのではないかと思われた。

陸上植物には植物園が動物園と同じくらい全国にあるのに対して，水族館（園）はほとんど動物のみで，水槽に植えられているのはビニール製のイミテーション海藻という現状はさびしい。海藻類の栽培の難しさがあるにしても，今後多くの水族館で天然の海底の状態が再現された海藻の生い茂る中を泳ぐ魚たちをみてみたいものである。

一行にはジャイアントケルプ水槽の裏側（水槽上側）も見学させていただき，水面に設置された巨大な造波装置や照明装置などを見て，あれだけのものを維持管理する難しさをかいまみた気がした。

1時間ほどで駈け足で見学した後，のとじま水族館を後にして，午後6時頃宿舎の氷見灘浦温泉国民年金保養センターひみに到着した。温泉で汗を流した後，大広間で懇親会が開かれた。白魚の踊り食いなど筆者が初めて食べる海の幸が多かったごちそうに舌鼓を打ちつつ，懇親会では全員の自己紹介・研究紹介が行われた。デンマーク・モエストラップ教授をはじめ4名の外国人研究者が参加されていたため，自己紹介は日英2カ国語で行われ，話がはずんだ。和やかなうちにも熱心な語らいが続けられた後，午後9時に大広間での懇親会はおひらきとなり，その後いくつかの部屋では夜おそくまで酒宴が開かれた模様であった。

翌日は朝方あいにくの雨天であったが，朝食前近くの海岸に海藻採集に出かけた人もあった。午前9時頃宿舎を出発する頃には幸い雨もあがり，すぐ近くの女良漁港から船2隻を出していただき，沖合いのワカメ養殖漁場を見学することができた。養殖ロープにはワカメが見事に育っており，漁業者の方が手際よく刈り取って下さった。養殖種は，以前は宮城からの北方種を使用していたが，現在は南方種（裂葉の切れ込みが長い）を用いているとのことであった。

会場は降雨後にもかかわらず穏やかで波も少なく，充分養殖状況を見学することができたが，冬場の日本海の荒波の中でのワカメ養殖の管理の苦労がしのばれた。

沖合い漁場の見学後，港の加工場でのワカメの灰付

け・乾燥作業を見学した。六角柱型の大型の鉄製の容器にワカメと灰を入れ，ぐるぐるまわしながら灰をワカメにまぶす様子をみせてもらった。灰付けワカメは女良の特産品とのことで，灰のアルカリ成分により，葉緑素の分解が抑制され緑色が保たれるとのことであった。外国からの参加者は，特にこの灰付け作業に興味を持たれたようで，盛んに質問が出ていた。最後に女良漁港前で全員で記念撮影を撮った後，バスは富山市へ向けて出発し，正午過ぎ市民向け展示の準備が盛んに行われていた富山県民会館に到着した。こうして筆者にとって充分意義深いものであった足かけ２日のエクスカーションは，無事終了した。

最後に，時間を割いて館内を案内していただいたのとじま水族館の皆さん，ワカメ養殖場を見学させていただいた氷見漁業協同組合女良支所の漁業者の皆さん，そして特にこのエクスカーションの企画運営にご尽力された富山県水産試験場藤田大介氏に心から御礼申し上げます。

エクスカーション参加者：鯵坂哲朗（京大・農），有賀祐勝（東水大），飯間雅文（長崎大・水産），石川依久子（東京学芸大），梅崎勇（福井県立大・生物資源），岡崎恵視（東京学芸大），小林弘（東京珪藻研究所），小林玲子（小林夫人），佐野修（金沢水族館），澤田威（常葉学園中学），能登谷正浩（東水大），林田文郎（東海大・海洋），藤田大介（富山県水試），藤田隆夫（東邦大・理），堀輝三（筑波大・生物科学），三浦昭雄（青森大・工），山本鎔子（明大・農），吉崎誠（東邦大・理），Ø・モエストラップ（デンマーク・コペンハーゲン大），ニルス・ハーゲン（ノルウェー・ノルドランド大），ヘレン・マーシャル（ハーゲン夫人），ジゼル・ダール（ハーゲン夫妻友人）以上22名。

（飯間雅文：長崎大・水産・藻類増殖）

女良漁港での記念撮影（藤田大介氏撮影）